



横須賀市自然・人文博物館
神奈川県横須賀市深田台95
046-824-3688

<https://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp>



もくじ	巻頭特集：企画展示「巡回展『神奈川県植物誌2018』と三浦半島の植物たち」.....	1
	博物館のナツミカン	2
	冬の魚「終（このしろ）」	2
	消化弾、その実力は？.....	3
	横須賀製鉄所の魅力	3
	おもしろい漂着物たち 天神島臨海自然教育園	4
	展示を一部リニューアル！ 馬堀自然教育園・本館	4

巻頭特集 企画展示「巡回展『神奈川県植物誌2018』と三浦半島の植物たち」

博物館では、「植物誌をつくろう！～『神奈川県植物誌2018』のできるまでとこれから～」(神奈川県立生命の星・地球博物館 2018年度 特別展)の巡回展にあわせて、標記の企画展示を行いました。

【神奈川県植物誌とは？】

「植物誌」とは、地域に生育する植物を調べてまとめた植物目録です。

神奈川県内ではこれまでに1933年、1958年、1988年、2001年に植物誌が刊行されています。2018年、県内の全ての植物の最新の分布情報を調査した成果が『神奈川県植物誌2018』として刊行されました。当博物館でも、三浦半島で採集された植物標本データを提供し、執筆も担当しました。

【おもしろどころ】

■最新の調査でわかったこと

神奈川県で新しく見つかった植物、再発見された植物、過去の標本の記録とくらべて分布を広げた植物、減少した植物などを標本や写真で紹介しています！

神奈川県や三浦半島にはどのような植物が生育しているのか？昔と今で変わったことはあるのか？展示をみて確認してください。

■植物調査の歴史をたどる

神奈川県は古くから植物が調べられてきた地域です。江戸時代末期には、ペリー艦隊の乗務員が横須賀の各地



展示室の様子(左上)、杉田のスギ(左下)、ペリー(中央下)、展示のポスター(右)

(猿島や夏島などでも!)で植物を採集した記録があります。また、横須賀製鉄所の医師サヴァチェは、勤務の合間に植物を調べ、多くの新種を発表しています。展示では、江戸時代から現代にかけての植物調査史を文献とともにたどります。

◆巡回展第2部のお知らせ◆

博物館では引き続き、『神奈川県植物誌2018』に関する巡回展の第2部「ヨコスケンセーよこすかの歴史を彩る植物たち」の開催を予定しています。横須賀の歴史と植物研究史の様々な接点を掘り下げて展示します。

期 間：2020年3月14日(土)～5月31日(日)
9時～17時(休館日を除く)

(植物学担当 山本)

編集後記

今号で紹介している企画展では、植物学に関連する資料だけでなく歴史の分野の資料も展示しています。植物研究の歴史に横須賀が登場する、そんな意外なつながりを楽しんでいただければと思います。(山本)



博物館のナツミカン

博物館本館1階の入口のまわりには様々な植物が植栽されています。そのなかでも、橙色の立派な実をつけたナツミカンの木は目立つ存在です。春には白色の綺麗な花が咲き、初夏には小さな緑色の実をつけます。今みられる橙色のナツミカンの実は、昨年の春に咲いた花が結実してできたものであり、昨年の秋からずっと木になっています。



博物館のナツミカンとその標本

では、なぜ“夏”ミカンと言うのでしょうか。これは酸味が強いナツミカンの実が翌年の夏に比較的甘くなって食べごろになることによります。このことが知られる前は、ナツミカンは食用に適さないとされており、ほとんど食べられていなかったようです。

ところで、博物館のナツミカンの実は、採集してさく葉（おしば）標本にもしています。ナツミカンのように立体的で水分を多く含む実を植物標本にすることはなかなか大変です。自然の姿を残すため、ナツミカンの果実を枝についたままの状態ですら薄く切り、熱をかけず吸水紙にはさんで乾燥させました。ナツミカンの標本はイベントで展示することがあります。どこかでお披露目するときをお楽しみに。

(植物学担当 山本)

参考：門屋一臣 1989. ナツミカン. 相賀徹夫 (編) 園芸植物植物大事典 (4) 小学館 p.535



冬の魚「鯿 (このしろ)」

魚偏に冬と書いて「コノシロ」と読みます。

コノシロ *Konosirus punctatus* (Temminck et Schlegel, 1846) は江戸時代の末期に長崎出島のオランダ商館のドイツ人医師であったフィリップ・フランツ・フォン・シーボルトがオランダのライデン博物館に持ち込んだ標本をもとに、1846年、当時のライデン博物館館長のコンラート・ヤコブ・テミンクと同博物館の動物部長だったヘルマン・シュレーゲルによって新種として発表された魚で、プランクトンを食べ、北海道南部～九州南部の内湾や河口域などで大量に漁獲される魚です。

日本では古くは「都奈之 (つなし)」と呼ばれ、万葉集の中で大伴家持が長歌の中でその名を歌い、富山県氷見市には「つなしとる ひみのえすぎて」という大伴家持の歌碑が立てられています。

「つなし」という名は現在でも東海地方より西の地域で、おもに小型・中型の個体に対して地方名として残っていますが、そのほかに30近い地方名(方言)がある

ことから、各地で昔から親しまれていた魚であったと考えられます。

また、コノシロは成長にともなって呼び名が変わる「出世魚」としても有名で、関東地方では体長4～5cmのものを「シンコ」、6～10cmのものを「コハダ」、15cm前後のものを「ナカズミ」、約17cmを超えると「コノシロ」と呼びます。

コノシロは小骨が多いことから小型のものの方がおいしいとされ、江戸前寿司では定番の「光もの」の寿司ネタとしてシンコやコハダが用いられます。ナカズミやコノシロのサイズになると味はよくても骨が硬くなって食べにくくなるため、あまり好まれなくなってしまいます。旬の時期はというと、シンコは初夏～初秋、コハダは秋～初冬、コノシロは春の産卵期以外はいつでもおいしいのですが、やはり鯿だけあって冬がおすすです。

横須賀市の周辺では、東京湾の底引き網や刺し網でたくさん漁獲されるほか、平作川の downstream～河口では春～初夏に橋の上から群れで泳ぐ姿が見られることがあります。

(海洋生物学担当 萩原)



コノシロ (神奈川県立生命の星・地球博物館提供: 瀬能 宏撮影)



体長4cmのコノシロ幼魚 (シンコ)



消火弾、その実力は？

2020年1月22日、博物館で消防訓練を実施しました。1月26日の文化財防火デーにちなみ、毎年行われています。

さて、博物館では、昭和11年製の消防車や消火弾を収蔵しています。みなさんは、消火弾と聞いてどんな物かイメージできますか？



消火弾

博物館に収蔵している消火弾は、玉ねぎほどの大きさのガラス製の容器に消火剤が入っている物で、火に向かって投げて使います。この消火弾は昭和初期に販売されていたものですが、戦前の特許を調べるとそれ以降も様々な消火弾が開発されました。特許があるからといって販売されていたとは限りませんが、消火弾の形を改良したり、消火剤を変えたりしていたようです。消火弾の中身は、消火剤か砂がほとんどだったのですが、なかには海草を入れたものもありました。乾燥させた「コアマ」藻を袋に入れ、いざとなったら水を含ませ投げるようです。海草の消火弾はもちろんですが、消火剤でも砂でも少量ですから、その実力は定かではありません。だからといって、大切な資料を使って検証することはできませんが…。

現在では建物の防火性も高まり、消火器具の性能も向上していますが、やはり火事を起こさないことが肝心です。みなさんもくれぐれも火の用心を。

(民俗学担当 瀬川)



消防訓練



横須賀製鉄所の魅力

横須賀製鉄所は、製鉄所と言う名を持つものの、おもに造船と船の修理をおこなっていた施設で、慶応元(1865)年に起工して明治4(1871)年に横須賀造船所と名を変えました。開国後の日本では、江戸の近くで大きな船を修理できる施設が必要となり、江戸幕府は、世界の技術状況を研究したうえで、その建設をフランスへ委託し、場所も横須賀に定められました。建設を託されたフランス人たちは、横須賀製鉄所のことを Arsenal d'Iokosuka (アルスナル ディオコスカ) と呼びました。

横須賀製鉄所は日本への西洋技術移転と工業力強化の拠点と位置付けられていました。ここでは、船以外にも富岡製糸場や生野鉱山などの各地の官営工場の機械を生産するなどして、日本の近代化を大きく支えました。世界遺産である富岡製糸場の建築も横須賀製鉄所が設計したものです。

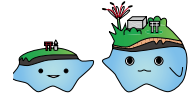
(建築史学担当 菊地)



横須賀港一覽絵図(明治12年官許、当館蔵)
横須賀造船所の観光用としてつくられた当時の絵です。

おもしろい漂着物たち

天神島臨海自然教育園



台風のとや、波が荒れた日の翌日などは、おもしろいものが打ちあがります。

これまでに、巨大な（体長約15cm!）ウミウシ「ダイオウタテジマウミウシ」（2019年6月25日、来園者採集）や、打ち上げられてカラカラに干からびた「クモガタウミウシ」（2019年11月）、2020年1月9日に打ち上がった大きな「ホシダカラ」などが見られました。

クモガタウミウシは樹脂に埋め込み、ホシダカラと共に天神島ビジターセンターにて展示中です。ウミウシの観察が難しい冬の時期でも標本を間近に観察することができますよ。



左から「ダイオウタテジマウミウシ」、「クモガタウミウシの樹脂標本」、「打ち上がったホシダカラ」

（天神島臨海自然教育園 小長谷）

展示を一部リニューアル！

馬堀自然教育園・本館

夏の特別展示「おいでよ！まぼりの森 - 馬堀自然教育園の60年とこれから -」の終了後、展示の一部を馬堀自然教育園と本館に移設しました。

【馬堀自然教育園】

教育園の学習棟入口の壁面に木製のこを設置し、馬堀の森のみどころを紹介できるようにしました。部屋の中には、馬堀の歴史がわかる年表や航空写真のパネルを設置しています。ウォールケースの中も更新し、これまで質問が多かった地殻歪み計の解説パネルを追加しました。ウォールケース脇には小さなワークショップコーナーを設け、園内のどんぐりの観察や、ホタルの発光を学ぶパネルを設置しています。

園内の散策を楽しむ他にも、学習棟内で調べたり遊べたりできるコンテンツが増えました。みなさまの学習にお役立てください。



学習棟入口(左上)、航空写真とワークショップコーナー(右上)、年表パネル(左下)、ウォールケース内の地球科学解説コーナー(右下)

【博物館本館】

本館2階にある森のジオラマの隣に「樹液に集まる昆虫」を展示しています。昆虫たちはすべて本物（標本）です。また、3階ラウンジの休憩スペースには「どんぐりのゆくえ」（木製玩具）を設置しました。多くのお客さまが楽しめるよう、やさしく遊んでいただきたいです。

（植物学担当 山本）



「樹液に集まる昆虫」の展示(左)と「どんぐりのゆくえ」(右)

メールマガジン配信中！

メルマガに登録して、最新情報をGETしよう！！

展示やイベント、読み物「学芸員 自然と歴史のたより」など最新情報を配信しています。

登録は簡単！QRコードを読み込んで、E-mail アドレスを入力するだけ！！ →

- ① 右のQRコードを読み込み、博物館ホームページ内の「メールマガジン登録・変更・解除ページへ」をクリック！
- ② 「登録・解除フォーム」にE-mail アドレスを入力して「登録」ボタンを押せば登録完了！

URL ⇒ <https://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/mailmagazine>



Twitterはじめました！ @ycm_yokosuka

https://twitter.com/ycm_yokosuka